

(議長)

休憩を閉じて再開致します。

次に、「萩原議員」の発言を許可致します。

「萩原議員」

議長。

(議長)

「萩原議員」。

「萩原議員」

はい。一般質問に入る前に、私と町長はあの北海道新聞時代ですか、北海道新聞が姥神町にあったということで、私が頭取の時にお祭りに参加していただいて、大変仲が良かったんですけども、転勤して来た時、久しぶりに会った時には、町長に立候補するということが大変驚きました。その間話すこともあまり無かったので、町長がどういう思いでこの江差町長になるかという思いがわかりませんので、公約等について質問致しますので宜しくお願い致します。

若者が将来に希望を持てる町づくりについて質問致します。町長は、江差に赴任していた新聞記者時代にある中学生に将来の夢を聞いたところ、職業や仕事の答えは返ってきませんでしたが、江差で働きたいと言ったことが頭から離れず、彼のように思っている若者が多くいることを知り、夢を持って暮らせる町を実現させるために、町長になることを決意したと町長の選挙パンフレットの中にありました。地方を取り巻く環境が厳しい今の時代に、若者が将来に希望を持てる町づくりとは一体どんな町づくりか。また、所信表明等で若者の定着には雇用の場が必要と言っているが、雇用促進ではどんなことを考えているか、お答えいただきたいと思います。

「町長」

議長。

(議長)

「町長」。

「町長」

萩原議員の1問目、若者が将来に希望を持てる町づくりについての質問にお答え致します。若者がこの江差町に住み続けられる町づくりであり、そのため、ひとつには一次産業である農業や漁業に従事する若者を1人でも多く育てたいと考えており、安

定的な収入が確保できなければ後継者も育たないわけでありますので、支援対策を強化してまいることは先ほど来申し上げている通りでございます。この一次産業の振興が商業やあるいは加工業に広がり、そして江差町の雇用の場が少しでも広がっていくと、私は考えております。

ふたつめは子育て世代の世帯の経済的負担の軽減を図り、この地域の定住を促進していくことであります。若者が地域で子育てしやすい環境をどう整えていくのか。真っ先に取り組むべき、私の公約として第3子以降の保育料の無料化、18歳までの医療費無料化の拡大、これを今定例会にご提案申し上げておりますのも、繰り返しにはなりますが、子育て中の若い世代への支援策は欠かせないという強い思いからであります。先ほど萩原議員もおっしゃった通り、昨今人口減少問題による地域の存続が大きくクローズアップされ、国の各省庁においても様々な主要施策が動き出しております。未来を担う子どもたちへの施策についても、今後国の動向、制度活用を踏まえながら、保育や教育環境の整備に前向きに取り組んでいきたいと考えております。

私は若者への支援強化を図ることが、高齢者を支え地域を支える環境を作りあげていくことになるというふうな考えのもとで、町づくりを推進していきたいと考えております。また、雇用促進についてでございますが、雇用の拡大は一次産業を主軸とした産業の振興と表裏一体でございます。ふるさと納税の特典付与として、地域の特産品を活用したり、アンテナショップの開設による販路の拡大など、細かなことから産業振興に取り組みたいと考えておりますが、一次産業の振興も含め、産業のすそ野を広げた上で、若者が地域に誇りを持ち、安心して暮らせる雇用環境の創出に努めてまいりたいと考えております。

また、現在、江差町で制定されている企業立地の促進及び雇用の奨励に伴う雇用助成事業を基礎として、企業誘致にも力を注ぎ、雇用の促進に繋げていきたいと考えております。以上でございます。

#### (議長)

「萩原議員」。

#### 「萩原議員」

再質問致します。

私はですね、平成23年の3月の定例会で同じように若者の定住対策について質問しました。若者の定住対策の成功例としては、やっぱり長野県の下條村の取り組みというのが注目されているわけなんですけれども、その取り組みなんですけれども、まず村民住宅の建設ですね。特に村民住宅っていうのも、補助金や地方債や交付税で建てた場合には色々制限があつて、入居者は抽選で決めなければならないとか、低所得を一定水でなければならないとか、家賃はいくらでなければならないという縛りがあ

の中で、自主財源で下條村は住宅を建て、月、2LDKなんですけど、3万6千円の家賃でということで、やってきました。また、2012年度からは45歳未満が対象ですけれども、建設費の10パーセント、上限100万円まで、家等建てた場合に助成金を出したり。あとですね、まあ今回の補正でも出ますけど、医療、高校卒業までの医療の無料化、そして保育料の引き下げ、その他にも給食費の40パーセント補助など、実施してるんですよ。ただ当然これは財源はかかるものですから、下條村ではやはり役場の職員をもう半分以下に下げるとか、コストの部分でも大変努力されてますけども、その若者が住みやすい町ということで、促進の住宅に関しては、町長どのような考えですか。

「町長」

議長。

(議長)

「町長」。

「町長」

今のご質問、住宅政策についてでございますけれども、今江差町内でもですね、公営住宅を抱えておまして、またその老朽化という問題もございます。そういう中で、そういう、若者が定住できる対策としての住宅政策についてもですね、まあその公営住宅の整備等の中で検討していきたいと思っておりますので、ご理解宜しくお願い致します。

(議長)

「萩原議員」。

「萩原議員」

はい。それでですね、先ほど飯田議員も言ったんですけれども、今日の新聞で留萌市長の話が掲載されてて、やはり留萌市も人口減少が激しく、若者が定住できる雇用の場が作れていないということが問題になっております。私もやっぱり最大の定住対策は雇用だと思っております。でも、江差町はなかなかその若者が希望する職種も少ないと私は考えるんですよね。例えば、企業誘致にしても江差にあるような企業を誘致しても、やっぱりどこかで問題が起きる、商店街にも迷惑かけるとか色々な部分も問題があると思います。また、江差町の企業もですね、集めても来ないという部分もあるみたいなんです。要するに募集しても江差町の人に来ない。やはりこれだけ車社会になると便利ですので、他町村、乙部町や熊石からそういう応募もあるということで、なかなか雇用の場としてあっても来てくれないという部分もありますし。また他から来てもらっ

でも問題が生じる場合もありますよね。ですので、一概に何でも企業誘致とかそういう部分では無いと思うんですよ。またですね、やっぱり今回の行政報告にありましたように、看護婦が増加したというのも就学資金制度とかいうような形で何かの制度があったりして、そういう部分でもやっぱり雇用が増えるという部分もありますし、雇用の場を増やすのは地元の企業が元気になければならないことで、やっぱり地元の企業の支援策もあると思います。その地元の企業の支援策というのはどのように考えてますか。

(議長)

「町長」。

「町長」

今仕事があってもなかなかここに定住できないあるいは外からの雇用が来ているというようなお話でしたけれども、まずですね、先ほどもおっしゃったように例えば看護師の問題。江差道立病院では看護師が不足していて、その手当として町としても補助の支援制度を行っているわけですけども、それでも集まらない、江差道立病院に働いて頂けないという状況があって、雇用のミスマッチというか、そういう部分もあるのかなというふうに思っております。しかしながら、この江差で住んでいく、私は考え方として、周りの町では移住ということに、外から人を呼ぶということで努力されている自治体さんもありますけれども、私はそうではなくて、まずこの地域に住んでる人が住みたいと思った人が残れるそういう環境を作っていかなければならない。その上で、先ほど議員おっしゃったように、まず地元の企業、あるいは農業者、漁業者が元気でなければその実現はできないとも考えております。そのための積極的な政策は私も行っていきたいと思っております。財政の問題もありますけれども、メリハリをつけてですね、農業、漁業、そして商工業にしっかり手当をしていく。そういう行政運営を行っていきたいと思っておりますので、ご理解宜しくお願い致します。

(議長)

はい、「萩原議員」。

「萩原議員」

はい。次に空き家を活用した宿泊対策について質問致します。

我が町も人口の流出により空き家が増えています。また長年放置して危険な空き家も増えています。北海道新幹線開業を見据え、宿泊施設の不足を解消するための政策と考えますが、宿泊対策に活用できる空き家、風呂やトイレ、炊事等が可能な空き家を何軒想定してのことなのか。また、どのような手法で行うのか。町長の考えを伺いたいと思います。

「町長」

議長。

(議長)

「町長」。

「町長」

萩原議員の2問目の質問、空き家を活用した宿泊対策についてのご質問にお答え致します。平成26年7月上旬に空き家対象者230件のうち、現住所の判明している217人に対して、アンケート調査を実施致しました。そのうち134人から回答があり、回答率は61.8パーセントでありました。アンケート、質問項目の中で、対象となっている家屋を使用していますか、という質問に、59.6パーセントの方が使用していない、という回答でありました。また、空き家のどのような点で困っていますかという問いには、取り壊したいが費用不足が61件、修繕費用不足が51件、借り手買い手がいないが38件となっています。また、空き家を今後どのようにしていきたいと考えていますか、という質問に対して、資産として保有するが50.6パーセントで1番多い回答でありました。次に多かったのは、売却したいという回答が29.8パーセントあり、約40件の所有者が売却を望んでおりました。また、議員の質問にあった空き家は何軒を想定しているかという点については、アンケート項目で空き家はどのような状態ですか、という問いで、現在でも住める状態にあるとの回答が66件ありました。以上、このアンケートから読み取れる内容を踏まえ、町と致しましては空き家の宿泊対策をどうするかという観点だけではなく、空き家の活用策をどのようにしていくかという観点から必要な政策を今後検討してまいりたいと考えておりますので、ご理解願います。

次に空き家、空き家の宿泊対策についての質問ですが、さきのアンケート集計結果を基に空き家の活用策を検討してまいりたいと考えています。その中で旅館業法との関係などから、法的に可能かどうか、また所有者の意向はどうか、などを踏まえて対応してまいりたいと考えておりますので、ご理解をお願い致します。以上でございます。

(議長)

はい、「萩原議員」。

「萩原議員」

今の答えの中で66件が活用できるとありましたよね。それはあれですか、この活用するために町はその物件を買い取って宿泊施設にするという考えなのか。そのへんのことをお聞き致します。

(議長)

「町長」。

「町長」

今の質問でございますけれども先ほど答弁でも申し上げたとおりですね、色々な法的な対応もございます。町としてできることが、どの点があるのかしっかり精査した上で、政策にしていきたいというふうに考えておりますので、ご理解宜しくお願い致します。

(議長)

はい、「萩原議員」。

「萩原議員」

あの活用策は皆で考える、精査しながら考えるということなんですけれども。宿泊施設が足りないといっても、やっぱり追分大会やお祭り以外の時は、ほとんど必要ない、必要というか現状はそんなに需要が無いのかなと思われましてけれども、その何て言うんですかね、需要が無い場合の対策とかも全然町長の方は考えていないんですか。せっかく空き家になっているのに、その部分だけしか考えてないんですか。もって何て言うんですかね、具体的に、その考えるじゃなくて、こういう空き家を利用するんだから宿泊をどういう形で宿泊するのもうちちょっと詳しくお聞かせください。

(議長)

はい、「町長」。

「町長」

ただいまのご質問でございますけれども、宿泊対策として空き家を活用するかどうかも含めてですね、空き家を活用した政策を考えないといけない。それがまず、大きな考え方であります。その上で、それが空き家として、宿泊施設として利用できるかどうかということを含めて検討していくということでございますので、その点は理解していただきたいのと、もうひとつやはりですね、所有者との関係もございます。しっかり所有者の方とどのような方策があるのかということも、意見を伺いながら行ってまいらないといけない。個人、民間の所有するものでございますから、そういうことも踏まえて検討してまいりたいと思っております。

(議長)

はい、「萩原議員」、3問目に移ってください。

「萩原議員」

はい。商店街対策について質問致します。

江差町も私が小学校の頃の昭和54年には、商店の数は223件あり、新地、本町、橋本町までたくさんの商店がありました。しかし、平成24年度には136件まで減りました。長年江差に住んでいると、昔からの馴染みの店が閉まっていくのを見ると寂しい限りです。公約の中で、商工業を大切にする町づくりとあります。その中での商店街振興はどのように考えているかお伺い致します。

「町長」

議長。

(議長)

「町長」。

「町長」

萩原議員の3問目、商店街対策についてでございますが、商工業は一次産業と並び、町の経済の基礎を支える一翼であり、重要な施策であると認識しております。商店街の活性化無くして、町の経済復興は無いとも考えております。しかし、現在の商店街へ目を向けると、シャッターが下りた店舗や長年使われていないビルが町中に存在し、商店街の活気がいまひとつ無いように思われます。私は町内の各商店街の歴史や風土を活かし、観光客にも親しまれる商店街づくりを目指すべきだと考えております。今後の個別商店街の整備につきましては、商店街の関係者の皆さんと十分に協議を行い、将来の商店街のあるべき姿を描いた上で、国や道などの支援も模索して、地域の方々と一緒に商店街づくりと活性化を成し遂げたいというふうと考えております。

(議長)

「萩原議員」。

「萩原議員」

はい。今町長はですね、商店街と協議しながら考えたいと言っていました。しかしですね、その他の公約や新聞のインタビュー、例えばですけども、上町商店街を昭和の高度成長期並みの町並みに再現していきたいというような表現もありました。しかしながら、所信表明では高度成長期のような右肩上がりの成長は望めませんとあって、ちょっと何か矛盾するような、私が考えるにですよ、(矛盾する)ような感じなんですけれども、この昭和の高度経済成長期の町並みの再現ということはどういうことなのか。また

商店街では、どのような商店街にしてほしいということは、町長、現時点でわかっているのか。そのへんのところお聞き致します。

「町長」

議長。

(議長)

「町長」。

「町長」

ただいまの質問でございますけれども、まず公約にある部分、あの所信表明にある高度経済成長のような成長は望めないという主旨で申し上げたのは、それはこの町の経済の発展の意味であって、それは商店街の意味ではなくて、私とそのインタビューの中で答えているのは、例えば、いにしえ街道はにしんで栄えた時代を再現した町並みであります。例えば、お話として、上町に高度経済成長、例えばオールウェイズ3丁目の夕日という映画が非常にヒットしましたけれども、ああいう時代の町並みを整備したら、上町と下町の連携が深まり、いにしえの町江差として売り込んでいけるんじゃないかというひとつのご提案を申し上げたわけでありまして。そういうご提案をしながら、今後ですね、商店街の皆さんとアイデアを交わしながらもちろん町民の皆さんにもそうですけれども、観光客の人にも親んでもらえるような商店街づくりをしていかなければならない。それはただ単に施設整備をすればいいというだけではなくて、しっかりとしたコンセプトを持って整理していかなければならないと私は考えていますので、ご理解を宜しくお願い致します。

「萩原議員」

どのように商店街をして欲しいのか、理解しているのか。

(議長)

「町長」。

「町長」

はい。その質問、どのように理解しているかということなんですけれども、しっかり今後商店街の皆さんと議論交わしてやっていきたいというふうに思っております。

(議長)

はい、「萩原議員」。



「萩原議員」

じゃあ3問目なんで、3問目に質問したいと思います。今後議員協議会も開かれると思いますけれども、今、LEDや旧江光デパートの問題というのは商店街の中であります。特に旧江光デパートというのは、道路法第44条に基づくと、例えば物が落ちてきたりすると全部町の責任ということで、大変危険な建物でございます。そんな中で町長は実際したらね、町の負担金を今どうなるかわかりませんが、町の負担金を使ってそのようなLEDや旧江光デパートの対策について、やる意思があるのかどうか、回答宜しくをお願いします。

(議長)

「町長」。

「町長」

ただいまのご質問の件に関しましてはですね、これまで商店街の方の要望も受けて検討してまいっております。この定例会終了後に議員協議会を開催していただきまして、その場でしっかり説明を申し上げたいというふうに思っております。ただ、商店街の皆さんの要望というのは、受け止めて前向きに検討していきたいというのが私の立場でございます。宜しくお願い致します。

(議長)

萩原君、「萩原議員」。

「萩原議員」

はい。それでは、最後の質問致します。

役場改革についてなんですけれども。道新の読者の声の記事に、町長は江差町に3年間勤務しているだけで、行政経験は全くの素人の彼がまずは役場の改革ということ。町内の内情をどれだけ把握しての立候補だろうと疑問が頭をよぎるというような大変厳しいような意見の記事がありましたけれども。役場改革と言ってますけれども、役場改革その他風通しのいい役場とかっていう表現も公約の中ではしてるようでございますけれども。今までの役場でどういった部分が悪くて、役場改革に取り組むのかお伺い致します。

「町長」

議長。

(議長)

「町長」。

「町長」

萩原議員の4点目の質問、役場改革についてであります。

私の役場改革の意味は、職員の能力を最大限生かすこととでございます。私はこれまで、これまで以上に職員と町長との意思疎通を図ってまいりたいと考えております。役場は町政発展のための業務を司る組織です。その組織の中の職員としっかりコミュニケーションを図り、意見や提案などを行政運営に生かしてまいりたいと考えております。その取り組みの一つとして、先般1回目の町職員との年代別懇談会を実施したところとでございます。若い職員も中堅の職員も分け隔てなく意見交換し、まずは職員との信頼関係を築いてまいりたいと考えております。

(議長)

「萩原議員」。

「萩原議員」

あの今の答弁ですと、能力、意思疎通ということなんですけれども、そうしましたら今まで意思疎通が役場内で出来ていなかったというのも問題あります。組織運営のことで、なかなか外部からわからないと思いますけれども、実際そうしたら組織の内部で働く人が、役場は全然意思疎通出来ていないというような意見を聞いたということなんですしょうかね。その点について、お答えをお願いします。

(議長)

「町長」

「町長」

その私の意図しているところは役場改革というのは、私が30歳という若さで立候補したこともあり、しっかり若い職員も意見が言える、提案できる組織にしたい、そういう意味で役場改革ということを私は訴えさせていただきました。そういう意味で、前任の町長やそれより前の町長との比較ではなくてですね、私自身がやりたい、私自身が実現したい役場というものを掲げて戦って、役場改革ということを訴えさせていただいたということをご理解願いたいと思います。

(議長)

はい、「萩原議員」。

## 「萩原議員」

何かちょっと腑に落ちないんですけども。何かやっぱり、私のそのやっぱり風通しのいいとかそういう言葉を使うと、どこか役場内が何て言うんですか、若い人が意見言えないような本当に風通しの悪い役場だったのかなって、そういうふうになってしまう私が悪いのかどうか分かりません。そういうふうになってしまうんですね。でも実際、何て言うんですかね、行政と一般企業を比較していいのかどうか分かりませんが、一般企業というのはやはり売上げを上げるとか目標達成のために社員一体となってやるっていう部分もあると思います。行政というのはやっぱりね、どちらかというとそういう達成、どこが達成というの分かりませんが、そういう行政サービスのために町民が良くなるために一生懸命であるという中での部分だと思うんですね。だからまあ若い人の意見を聞くのもいいですけども、私はですね、どちらかというと若い人の意見もたい聞くのも大変よろしいですけども、やはり町長自身がもうちょっとリーダーシップをとって役場、行政を運営してほしいと思うんですよ。何かずっとこう、何というんですかね、今までの質問等聞いてみると、本当に言葉悪いかもしれませんが、意見を聞く聞くというふうになると、何かどちらかというと他人の意見を聞いて、なんというかそれを選別して、そしたらやるかなというような感じに聞こえて、自分の意思が無いような感じに聞こえるんですよ。私はこういうふうにしたいというような強い意志というのがなんとなく伝わらないんですよ。たぶんもうちょっと、そういう、皆と考えるの、それは当然議会等あったり職員と話すのもいいですけど、もうちょっと自分の考えというのも必要だと思うんですけども、その点についてと、最後なんで、今までやっぱり役場職員というのは財政再建のために本当に苦労して、給与も削減された中で、一所懸命仕事してまいりました。その職員の給与について、町長は今後その引き下げたままでやるのか。また給与を元に戻すのか、その点の考えについても最後にお伺い致します。

## (議長)

「町長」。

## 「町長」

まず1点目の私のリーダーシップという点だと思うんですけども、政策決定プロセスの中で、役場の意見あるいは住民の意見を吸い上げて決定していくということ私は大事だと思っています。その上で行政のトップとして決断した時にはその責任を持つ、これが私は行政のトップ、町長としての役割だと思っています。もちろん私の思いも多々あります。しかしながら、私の思いともしかしたら住民の皆さん、あるいは役場職員の方が違う意見を持つてるかもしれない。そういう中で意見を戦わせてそして、意見を集約していく、私はこのプロセスが非常に大事だと思っています。時にはトップダウンも大事

です。しかしながら基本的にはボトムアップ、私が1人考えることよりも、役場職員10人、20の方が考えることの方がいいアイデアが出てくる可能性があります。そういったものをしっかり吸い上げる。若いからこそそれが出来ると私は思っております。そういう意味でリーダーシップが無いようにも見えるかもしれませんが、しっかり4年間で私の責任において政策を実行していく。そして4年後にしっかりご評価をいただければと私は考えております。

また職員の給与の問題でありますけれども、

(傍聴席から拍手)

(議長)

静粛に。

「町長」

職員の給与の問題でありますけれども、財政状況を踏まえてしっかりと今後判断していきたいと思っておりますのでご理解を宜しくお願い致します。

(議長)

はい。

「薄木議員」

議長。議長。

(議長)

以上で、

「薄木議員」

議長、議事進行。

(議長)

「薄木議員」。

「薄木議員」

はい。今のね、町長の答弁聞くどうしても納得しない。これは室井議員の時から始まっているんですよ。今になってそういうつもりでなかったって言ってますけども、選挙中もそうだったんですか。違うでしょ。今だって、しがらみと利害関係、その部分について

もしがらみって言葉を使うと完全に違います。そして今役場職員を風通しのいい、そういう職場にしたい。皆悪かったからそう思うんです。だからどうもあなたのお話になってることが理解できないんですよ。そうじゃないんですか。そのことをはっきり理解できるように説明してください。

(議長)

薄木議員、薄木議員。質問してください。

町長、今までの答弁を言ってください。

町長、今、薄木議員が言ってる、しがらみとか、今萩原議員に答えたことをそのまま、言ってくださいと。答弁してくださいと。してください。それが腑に落ちないと言ってる。質問答弁してください。

ちょっと待って、暫時休憩してね。

(休憩中)

(議会運営委員会開催)

(議長)

休憩を閉じて再開致します。

飯田委員長から報告を求めます。

「飯田委員長」

はい、議長。

(議長)

「飯田委員長」。

「飯田委員長」(議会運営委員会報告)

それではただいま議会運営委員会を開催致しましたので、協議の結果をご報告致します。ただいま一般質問、萩原議員の一般質問の最中に、薄木議員から議事進行がかかりまして、町長の答弁については甚だ誤解を招く点があるという指摘がされました。議会運営委員会で審議の結果、今後町長の答弁につきましても、発言者の主旨を十分に理解をしながら、誤解を招くような答弁がないように、今後はそのような点に十分留意をしながら答弁を願いたい。以上議会運営委員会の決定でございます。

(議長)

以上で「萩原議員」の一般質問を終わります。